

構造分析(スラッシュリーディング)

●構造分析とは

構造分析とは、英文を理解するために文の骨組み(構文)を明確に把握する作業のことです。知っている単語の意味をつなぎ合わせるだけでは英文を正しく理解することはできません。「意味のまとまり」に分解し、それらの関係を整理することが英文理解の第一歩です。述部は次の3つの型に分類することができます。

I 型 S+V

II 型 S+V+X

III 型 S+V+X1+X2

このうち、英文の大半が(S+V+X)の構造をもつので、《S+V+X》の部分(文の骨格)をきちんと和訳して、それ以外の部分は軽く流すだけで、たいいていの英文を理解することができます。まずは、「構造分析の基本」を参考にして、すべての英文で構造分析を書き込みましょう。書き込まなくても頭の中でできるようにになれば、英文を素早く正確に理解できるようになるでしょう。

●構造分析の基本

1. V(述語動詞)にアンダーラインを引き、その下にVと書く

Vは1語だとは限らない。2語以上の場合もあるが、次の原則を知っておけばよい。

①1語の場合:

(a) My sister plays the piano.
V

②2語以上の場合:

(b) My sister is playing the piano. [現在進行形]
V

(c) My sister can play the piano. [助動詞+動詞]
V

(d) My sister enjoys playing the piano. [動詞+動名詞] 動名詞: 動詞の要素をもつ
V

(e) My sister wants to play the piano. [動詞+不定詞] 不定詞: 動詞の要素をもつ
V

(f) My sister goes to school. [「go to X: Xに行く」で考えるタイプの動詞]
V

2. S(主語)の前にM(修飾語句)があれば、Sの前に/(スラッシュ)を入れる

主語は代名詞や(限定詞+名詞)であることが多い。その前に語(句)があれば、Mだと考えてよい。

(a) Yesterday / my sister played the piano.
M S V X

(b) However, / my brother didn't play the violin. ※文頭のMにはカンマがついていることが多い
M S V X

3. Xの後に/を入れる

XはさらにO(目的語)やC(補語)に分けられるが、英文を理解する上では特に区別をする必要はない。

(a) My sister played the piano / at the school festival.
S V X M

(a') The piano was played / at the school festival. ※元の文型がSVOの場合、受動態ではXはない。
S V M

(b) My father gave my mother a nice watch / for her birthday. ※Vの後にXが2つある場合もある。
S V X₁ X₂ M

4. M単位に/を入れる

(a) Yesterday / my father gave a nice watch / to my mother / for her birthday.
M₁ S V X M₂ M₃

完成形 Yesterday / my father gave a nice watch / to my mother / for her birthday.
V

(昨日/父は素敵な時計をあげた/母に/母の誕生日に。)

※Vと/を書くだけで文の骨格(my father gave a nice watch)が明確になるので、S、X、Mを書く必要はない。

●構造分析の応用

(1) 節が2つ以上ある場合

接続詞によって2つの節がつながれている場合、それぞれに対して構造分析する必要がある。節と節の切れ目となる接続詞の前に// (ダブルスラッシュ)を入れる。なお、文頭の()内は文型とMの数を表している。

(a) (SVX1/SVX1) You will get better / soon, // if you take this medicine / after every meal.
S V X M S V X M

(a') (SVX1/SVX1) If you take this medicine / after every meal, // you will get better / soon.
V V

(この薬を飲めば/毎食後に//あなたはよくなるだろう/すぐに。)

※接続詞Ifで文が始まる場合、if節(If you take this medicine)の終わりに//を入れる。

(b) (SV//SVXX2) I hope // that the teacher will make the test easy / for everyone / tomorrow.
S V S V X₁ X₂ M₁ M₂

(次のことを希望する//先生がテストをやさしくしてくれる/みんなのために/明日。)

※思考動詞(hope, thinkなど)や伝達動詞(say, announceなど)はXが節となることが多い。

(c) (1SVX1/VX1) Last Sunday, / we bought fresh bread / at the bakery // and ate it / at the park.
M S V X M V X M

(先週の日曜日/私たちは新しいパンを買った/パン屋で//そして、それを食べた/公園で。)

※等位接続詞andは、語と語や句と句だけでなく、節と節をつなぐこともできる。

※前半の節と後半の節のSが同一の場合、後半の節のSは省略される。ここでは、andの後のweが省略されている。

(2) 関係代名詞節

関係代名詞が入ると、文が長くなって少し読みづらくなる。そこで、次の2ステップで読むと分かりやすくなる。

①文の骨格(S+V+X)を中心に読む

②関係代名詞節を元の文の形に戻して、その文の骨格(S+V+X)を中心に読む

(a) We visited the museum which was built in 1920.

①文の骨格(We visited the museum)を中心に読む

(SVX1) We visited the museum / which was built in 1920.
S V X M

②whichはthe museumを説明しているので、the museumを代入して関係代名詞節を元の文の形に戻す

→ It [=The museum] was built / in 1920.
S V M

●理解の順番: ①私たちは博物館を訪れた→②その博物館は建てられた／1920年に

(b) The student whose laptop broke yesterday asked his teacher for help after school.

①文の骨格(The student asked his teacher)を中心に読む

(SVX2) The student (whose laptop broke yesterday) asked his teacher / for help / after school.
S M V X M₁ M₂

②whoseは所有格「～の」なので、the student's(その生徒の)を代入して関係代名詞節を元の文の形に戻す

→ His [=The student's] laptop broke / yesterday
S V M

③全体を理解する

●理解の順番: ①その生徒が先生に頼んだ→②その生徒のパソコンが壊れた／昨日→③助けを頼んだ／放課後

(3) 不定詞句

不定詞句や動名詞句には〈V+X〉が含まれるので、関係代名詞と同様に考えればよい。

(a) (1SVX2) To get a high score on EIKEN, / I read short articles / online / every morning.
M S V X M₁ M₂

①文の骨格(The student asked his teacher)を中心に読む

②不定詞句(To get a high score on EIKEN)の文の骨格(To get a high score)を中心に読む

→ To get a high score / on EIKEN
V X M

●理解の順番: ①私は短い記事を読んでいる／オンラインで／毎日→②高得点を取るために／英検で